

## セミナー開催案内

### デジタル画像セミナー

(デジタル画像専門委員会)

画像評価は客観的（物理）評価と主観的（視覚）評価によって行われます。各モダリティで画質（物理特性、描出能など）を改善するために様々な検討を行い、視覚評価をどのように行うか悩んだ経験がある方も多いのではないかと思います。単純に見た目で判断するだけでいいのでしょうか？物理評価をすれば十分なのでしょうか？

本セミナーでは、なぜ視覚評価を行う必要があるのか、実験の手順、注意事項、視覚評価法の種類、各評価法の概略の説明を行い、ROC 解析に次いで信頼性が高く、よく行われる一対比較法について少し詳しくお話しする予定です。多数の参加をお待ちしております。

日 時：平成 26 年 4 月 20 日(日曜日) 12:00～13:00

場 所：札幌医科大学 臨床第一講義室 2 階 (第二会場)

テーマ：「主観的（視覚）評価法の基礎」

座 長：八十嶋伸敏 (NTT 東日本札幌病院)

演 者：小笠原一洋 (北海道社会事業協会帯広協会病院)

### 乳房画像セミナー

(乳房画像専門委員会)

ここ数年来、ガイドライン、認定技師、超音波検査等の他モダリティからのマンモグラフィという視点でセミナーを開催してまいりましたが、昨年度の精度管理講習会の開催を経て、着実に技術普及と乳がん検診が浸透しつつあります。今後はさらに、基本的なマンモグラフィからのステップアップを参加者全員で目指していきたいと思えます。

今回の春季セミナーでは、現在すすめられている超音波の併用検診からみたマンモグラフィの基本を introduction とし、マンモグラフィの撮影技術と技師による画像評価について再検討する、継続重要課題の第 1 回としたいと思います。マンモグラフィを習得しようとしている方々をはじめ、乳がん診療に携わる会員の皆様の参加が得られれば幸いです。また、会場には、乳房画像専門委員会の委員の方々もおられますので、合間に日頃の疑問について情報交換していただければと思います。

日 時：平成 26 年 4 月 19 日(土曜日) 16:00～17:40

場 所：札幌医科大学 臨床第一講義室 2 階 (第二会場)

テーマ：「ステップアップ マンモグラフィ」

座 長：柏葉 綾子 (旭川医科大学附属病院)

Introduction

「超音波の併用検診からみたマンモグラフィの基本」

堀田 浩 (麻生乳腺甲状腺クリニック)

演題 1 「乳房撮影のコツ」

阿部 裕子 (KKR 札幌医療センター)

演題 2 「技師による画像評価と追加撮影」

瀬野尾勤子 (小樽協会病院)

## 消化管&超音波セミナー

(消化管&超音波専門委員会)

近年の画像診断においてCT, MRI は欠かすことの出来ない検査であることは周知のとおりである。一方、超音波検査は簡便で非侵襲的な点からも広く疾患のスクリーニングとして選択されることが多いのが現状である。

しかし、実臨床にて retrospective に見直した際には、超音波画像が最も疾患の特徴を捉えている時も少なくない。これらの症例におけるマルチモダリティ画像を対比することは臨床上、意義深いところである。各検査の優劣を決めるのではなく、画像と病理の対比から皆さんと一緒に考え、学び、新しい何かを得られることを目指したい。

また消化管に関しては内視鏡検査の有意性は揺るぎないが、消化管バリウム検査における粘膜面の微細評価は診断価値が高く、その有用性は多く報告されている。内視鏡、バリウム画像、病理を対比することにより、本検査の真の価値を皆さんと共に見いだせるようなセミナーとしたい。

セミナーを通じ、皆様に画像対比の魅力が少しでもお伝え出来ればと思っております。多数のご参加お待ちしております。

**日 時**：平成 26 年 4 月 19 日(土曜日) 13:00~14:00

**場 所**：札幌医科大学 臨床第一講義室 2 階 (第二会場)

**テーマ**：「マルチモダリティ画像の対比から学ぶ」

**座 長**：山田 泰司 (JA 北海道厚生連 札幌厚生病院)

**演 者**：消化管バリウム検査 荒井 雅昭 (北海道対がん協会 札幌がん検診センター)

：乳腺超音波検査 島崎 洋 (JA 北海道厚生連 札幌厚生病院)

：腹部超音波検査 中村 俊一 (JA 北海道厚生連 網走厚生病院)

## 核医学セミナー

(核医学専門委員会)

近年、核医学検査において新しい検査薬（ダットスキャン）が使用可能となりました。ドパミントランスポータの分布を反映し、パーキンソン症候群やレビー小体型認知症の診断に有用とされています。撮像条件や画像処理条件の最適化については、これから進めていかなければなりません。ドパミントランスポータイメージングについて理解を深めて参りたいと思います。

一方、PET 検査においては、心サルコイドーシスの炎症部位の診断と心筋血流アンモニア PET について、保険適用が拡大となりました。FDG は、癌だけでなく炎症部位も陽性像として描出することが可能ですが、心筋への生理的集積と分離して炎症部位の集積が検出できるかが重要なポイントとなります。アンモニア PET は比較的限られた施設において施行されておりましたが、今後はより広く応用されることが期待されます。今回のセミナーでは、SPECT 検査及び PET 検査の最近の動向について取り上げて参ります。

日 時：平成 26 年 4 月 19 日(土曜日) 13:00~14:00

場 所：札幌医科大学 講堂 1 階(第一会場)

テーマ：「核医学検査における最近の動向」

座 長：浅沼 治(札幌医科大学附属病院)

村上 茂樹(北海道社会保険病院)

「ダットスキャンによるドパミントランスポータイメージングについて」

演者：安藤 彰(釧路孝仁会記念病院)

「18F-FDG を用いた心サルコイドーシス検査およびアンモニア PET について」

演者：孫田 恵一(北海道大学病院)

## CT セミナー

(CT 専門委員会)

CT を学ぶためには「空間分解能」、「低コントラスト分解能」、「時間分解能」など、とにかく「分解能」を攻略する必要があります。『分解能の勉強なんて、全然つまらない』とか『これだから CT はとっつきにくい』って思ったそのあなた。分解能を理解することができれば撮影条件の設定なんて、ちょちょいのちょいなのです。今回の CT セミナーでは、基礎の基礎である「低コントラスト分解能と空間分解能」について、超スーパー簡単に解説します。CT を今まで学ぶ機会がなかった方、これから CT をやってみたい方、後輩にどうやって教えようか悩んでいる方、こんな切り口のセミナーもあります。是非ご参加ください。

日 時：平成 26 年 4 月 20 日(日曜日) 12:00~13:00

場 所：札幌医科大学 講堂 1 階(第一会場)

テーマ：「ドゥーユーノー、ブンカイノー？」

座 長：茅野 慎吾(札幌白石記念病院)

浜口 直子(札幌麻生脳神経外科病院)

演 者：小倉 圭史(札幌医科大学附属病院)

佐々木康二(札幌心臓血管クリニック)

## MR セミナー

(MR 専門委員会)

MR をより深く理解する上で「パルスシーケンスの理解」は避けて通れない部分であり、特に高速スピ  
ンエコー法は臨床において使用される頻度が多く、MR 検査における基本と考えられます。

通常、高速スピエコー法は 2D 法が使用されますが、近年、Cube や VISTA、SPACE などの 3D 高  
速スピエコー法が開発され、臨床検査でも使用可能となりました。しかし、いざ撮像条件を組んでみて  
も想像していたコントラストが出ないなど、臨床使用に苦慮されているかもしれません。

今回の MR セミナーは、今後ますます普及する(?)であろう 3D 高速スピエコー法に焦点をあて、  
「高速スピエコー法」をテーマに開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 26 年 4 月 19 日(土曜日) 16:10~17:40

場 所：札幌医科大学 講堂 1 階(第一会場)

テーマ：「春の高速スピエコー祭り！」

座 長：安田 浩司(旭川厚生病院)

演 者：1. 感謝 — 高速スピエコーの基礎— 中西 光広(札幌医大附属病院)  
2. 崇敬 — 3D 高速スピエコーの特徴— 石坂 欣也(北海道大学病院)  
3. 祈願 — 3D の臨床応用— 佃 幸一郎(NTT 東日本札幌病院)

## 医療情報セミナー

(医療情報専門委員会)

医療被ばくの低減については従来から努力が重ねられていますが、最近では医療被ばくの線量情報を管理  
することの取り組みが国連科学委員会(UNSCEAR)の提案もあり、世界的に活発になってきています。  
このトピックは昨年(2014)の日本放射線技術学会秋季学術大会でも分科会合同シンポジウムなどで議論が行わ  
れ、今後も議論が発展していくと思われま。そこで今回の医療情報セミナーでは、医療情報の視点から  
情報システムでの線量情報管理を行うことの必要性と現状の課題について基礎的なことを中心に講演を行  
う予定です。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 26 年 4 月 19 日(土) 16:10~17:40

場 所：札幌医科大学 看護部研修室 地下 1 階(第三会場)

テーマ：「医療情報から見た医療被ばく線量情報管理」

座 長：谷川 琢海(旭川医科大学)

講演内容

1. 海外での医療被ばく管理の動向  
谷川原綾子(北海道大学病院)
2. 国内での医療被ばくの把握に向けた最新動向  
福田 晋久(国立病院機構北海道医療センター)
3. 情報システムによる線量情報管理 DICOM DOSE-SR の管理に向けた課題  
柄多 秀逸(株式会社ジェイマックシステム)